

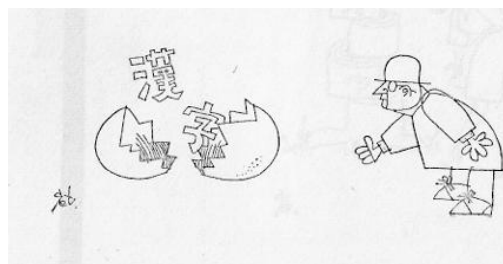
# 第1章

## 漢字の成り立ち



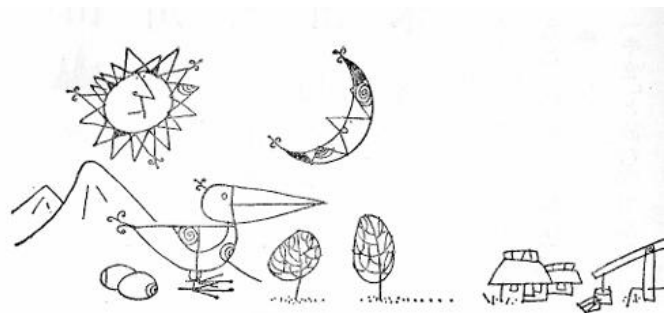
(第2部の漢字の下にある学年は、教育漢字の配当学年です。)

# 第2部



革命的漢字教育法

# 一年生でも新聞が読める



漢字でも、古くつくられた文字は、すべて象形文字です。字数はそんなに多くありませんが、これが組み合わされて、複雑な文字がたくさんつくられていますので、しっかり覚えておく必要があります。漢字を学ぶうえで、もっとも基本的なことなのです。

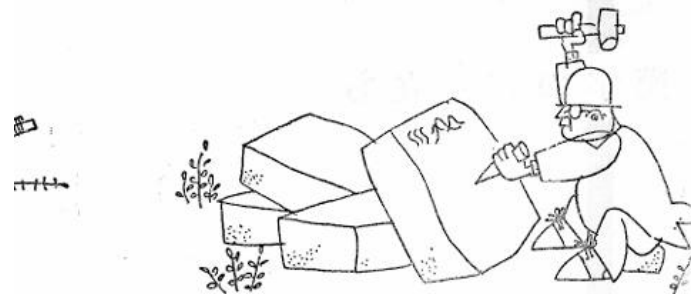
どここの国でも、文字のはじめは、かならず「絵文字」で始まっています。物の形を象かたどった字という意味で、ふつう、「象形文字」といわれています。

### 漢字の基本となる象形文字

(1) 知らない字でもヒタリと当たる

……象形文字

文字のはじめは「絵文字」



第一部では、「鬼に金棒」の鬼のからだをつくる方法を考えてきました。こんどは、金棒の番です。それは、「体系的」に漢字を学ぶ、ということですよ。いままでは、漢字をばらばらに覚えていきましたので、覚えるのにはねがおれ、覚えたものはわすれやすい欠点がありました。しかし、この学び方では、いっぺんにたくさんの漢字が覚えられ、覚えた漢字はわすれることはありません。これからの漢字の学習は、どうしてもこれでなければなりません。漢字を体系的に学ぶためには、まず、漢字の成り立ちを知っておく必要があります。

幸いにも、もどが絵からできた字ですから、知らない字でも、注意してみれば、しぜん  
と意味がわかってくるほどで、たいへん覚えやすいものです。

漢字を絵と結びつけて覚える



これらの漢字が、なにを表しているかは、字を知らない子どもでも、絵と対照するこ  
とでわかるはずです。たとえば、山が▲の絵に似ていることに気づいたら、山が「やま」  
と読む字であることを教えてやるのです。

つぎのきかいに(それは、その日のうちでも、数日後でもよい)、教えた字が読めるか  
どうか、尋ねてみます。数日後にまた尋ねてみて答えられるようでしたら、もう、一生わ  
すれることはないでしょう。しかし読めないからといって、心配することはありません。  
それは記憶力が弱いためではなくて、印象付けが足りなかったためです。

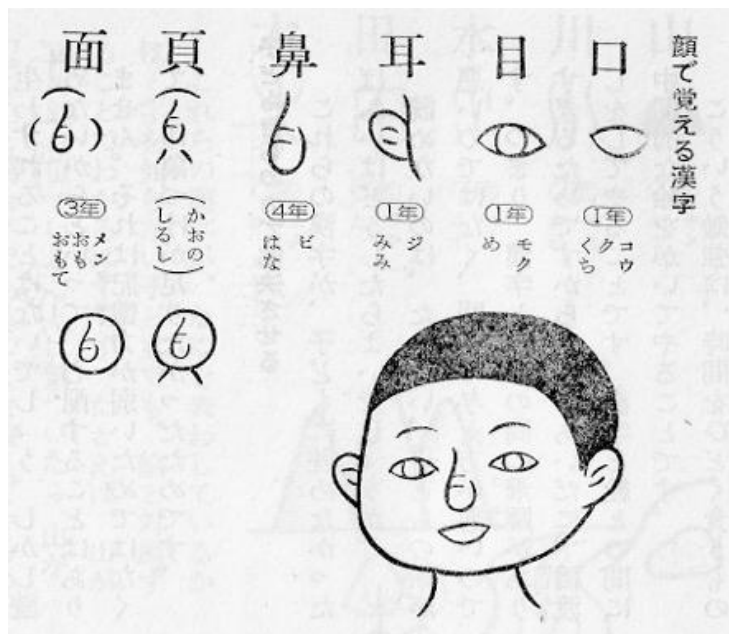
子供自らの力で解決させる

これらの漢字が、子どもに読めなかったばあいはどうしたらよいでしょうか。  
読めないのは、たいてい、子どもの頭が悪いのではなく、問題の与え方が悪いのです。

つまり、漢字と絵の間に飛躍ひやくがありすぎるためですから、そのあいだに、橋渡はしわたしをしてやることです。漢字と絵との間に中間的な絵をかいてやることです。

こういう勉強は、時間をひどく食うものです。しかし、自分の力で解決したものはうれしさが大きいものですから、けっしてわすれることがありません。けっきよくは、時間的にも経済だということになります。

顔で覚える漢字



絵と漢字の橋渡はしわたし

白

(3年) みずから

これが鼻の象形です。

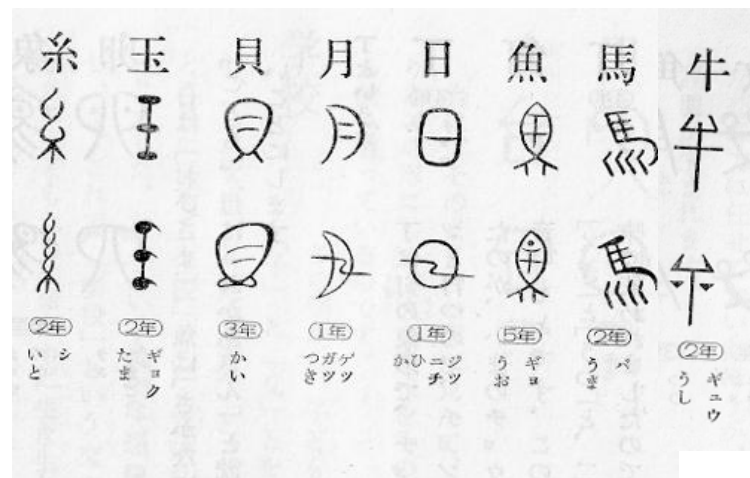
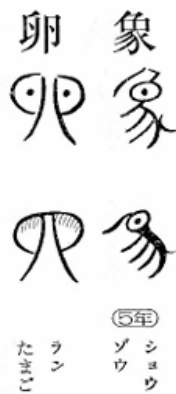
自分をさすのに、鼻に手を当てるので、「じぶん」という意味に使われ、実際の鼻には鼻という読みを表す字を加えて、これを区別するようになったのです。

ム

シ わたくし

これも鼻の象形です。

自が、しわのよっている鼻で、これは若い人の鼻です。これは、「わたくし」という意味に使われます。



日は「おひさま」、魚は「さかな」、子は「こども」、母は「おかあさん」と読んでよいことにします。

## 丁という字

丁 (4年)  
テイ  
チヨウ

釘 テイ  
くぎ

打 (4年)  
ダ  
うつ

丁は釘の象形で、チョンションと打つので、チョンといったのが、いまのチヨウという音のもとです。この字は、「くぎ」「と」「うつ」と、二つの意味に使われましたので、丁+金から「くぎ」、丁+手から「うつ」という二つの字ができました。ところが、丁は、「丁」のように、道の形にもなりますね。それで、「みち」「みちのり」の意味に使われ、いまの、「一丁目」という使い方が生まれました。

## 子どもの豊かな想像力に任せて教える

新体字の制定で、字体のすっかり変わってしまった字がかなりあります。こういう字は漢字の成り立ちを説明しても、なんの役にもたちません。むしろ、子どもの自由な想像力

に任せておいたほうが、みごとな説明が生まれます。

次の例は、その一例です。

円 (2年)  
エン  
台 (3年)  
ダイ

台はそのまま台の形に見立て、円は、りんごの形にして、丸い意味をその字形から読み取っているのです。

## 学校

この字から、子どもたちは「子」と「父」とを見いだし、これを、「自分たち生徒」と、「先生」とに見たてて、「がっこう」という意味をくみ取りました。なんとという豊かな想像力でしょう。これで、「学校」とい

う文字は、永久に子どもたちの頭の中に生き生きと生き続けることでしょう。



## (3) 楽しいなぞ解き文字……会意文字

## 会意文字の見方・教え方

象形と指示が、いちばん古い文字の作り方ですが、これでは、物と事は表せても、物事の状態や動作について説明することができません。たとえば、「どうする」とか、「どんなだ」というようなことは、象形文字や指示文字では、なかなか表すことができません。

そこで、二つ、またはそれ以上の文字を組み合わせて、別の新しい意味を表すことを考え出しました。二つ以上の意味を会わせるというので、これを「会意文字」といいます。この字はかなりあります。

会意文字は、二つ以上の部品の組み合わせでできていますから、まず、分解できたら、その意味を考え、その文の筋と関連させて、「どんな意味だろうな。」と、考えてみるこ

です。

部品と文の筋と、この二本の糸をたぐると、たいていは知らない漢字でも、かなり意味がはつきりつかめるようになるものなのです。

## しぜんに漢字を読ませる

休



②年 キュウ  
やすむ

この字は、人と木でできていますが、人と木はいろいろな意味で関係つけることができます。「人が木を切る」「たき木を採る」「道具を作る」など

という想像もできるかもしれませんが、それはそれでよいのです。ただ、それだけではほんとうの解決はつきません。その字が、文の中で、どのように使われているかを見るのです。

「まり子さんは、つかれたので、木の下に行って休みました」とあったら、すぐに正し



※  
「休」という字は  
入と木

い読み方っがわかるでしょう。

これを逆にいうと、ある漢字を教えるときにはこの方法を使い、ということですね。

このような、未知の漢字がしぜんに読めるような文章の中で、「漢字を読ませる」のです。そして、子どもがしぜんに読んだあとで、その字の成り立ちを、こんなふうに話してやるのです。

「暑い夏の日が、かんかん照り付けるところで、お百姓ひゃくしょうさんが仕事をしていました。

暑いし、それにつかれたので、休みたくなりました。そこで、お百姓さんは、木の陰には

行って、一休みしました。人が木のわきに行くとき、ほら、これが「やすむ」という字なんだよ。」

と、休という字を書いてみせるのです。

### いろいろな会意文字

林  
4年  
リン  
はやし

● 木がたくさんある「はやし」

森  
1年  
シン  
もり

● 木がもっとたくさんある「もり」

炎  
エン  
ほのお

● 火と火で「ほのお」

比

(5年)

くらべる



人と人と「くらべる」こと

並

ならび



人がふたり仲よく「ならぶ」

明

(2年)

あかるい

日も月も「明るい」

鳴

(3年)

なめる

鳥と口とで鳥が「なく」

島

(3年)

しま

「しま」は、海の島の住むところなので、鳥と山で表わしました。

男

(2年)

おとこ

田んぼで力を出して働く人は「おとこ」です。

東

(2年)

ひがし

木の向こうに日が見える方向が、「ひがし」です。

西

(2年)

にし



小鳥が巢にかえるのは日が「にし」に沈むころです。

信

(4年)

しん

信用(まこと)は人の言(ことば)で、いちばんたいせつなことです。

言

(4年)

ことば



口から「ことば」の出るようすを表した字です、「いう」「こと」

動

(3年)

うごく

重い物でも力を加えると、「うごく」

日本で作られた漢字

このようなやり方で日本で作った漢字もかなりあります。

働

(4年)

はたらく

人が仕事のために動くのが、「はたらく」ことです。

峠

とうげ

山の上り下りの境目が、「とうげ」です。



める」というように使いますが、「いっしょうけんめいにかんはる」ことです。「専攻科目」という使い方がこれです。また、⑤の意味には、

巧

コウ  
たくみ

「巧は一六六ページの可の丁と同じで、「ものごとがうまくいく」とを表しています。」という字を作りました。「たくみ」と読んでいます

が、もとは工だけで、その意味に使ってしまいましたので、人の名では「工」という使い方がいまでも残っています。

功

コウ  
ク

「力を出した結果「成功」するので、カという字と組み合わせました。」という字は、⑥の意味のために作られた字です。

川の流れる音からできた「江」と「河」

さて、攻、巧、功は、すべて工がもとになってできた字ですから、みな「コウ」という

発音をします、ところが、中国一の大川に、揚子江という川があります。むかしは、揚子

江とはいわずに、「工」と呼び、「江」と書いていました。それは、水の流れる音が、「コ

ウコウ」と聞こえたからです。ですから、古くは「工」と書いたと思われる

ですが、水のしるしである「シ」と合わせて上のような字ができたわけ

です。

河

カ  
コウ

河という字があります。これは「カーカー」と流れる音からできた川の

名です。有名な黄河の事ですが、むかしはただ「可」とよび、「河」と書いたことは、江のはあいと同じです。いつも黄色くにごっているの、のちに黄河と呼ばれるようになったものです。

この、江や河の「工」と「可」は、ただ発音を表すだけで、意味には何の関係もありません。「シ」が意味を表しているだけです。

このように、発音を表す部品と、意味を表す部品とでできている漢字を、「形声文字」といいます。「形」は象形文字、つまり、意味を表す部品をさし、「声」は発音をさしています。

漢字の大部分、はつきりいいますと、八割から九割近くまでが、この形声文字でできています。だから、漢字は表意文字ではありませんが、表音文字だともいえるのです。少なくとも英語程度、いや、それ以上に、発音をうまく表しています。

### 形声文字のいろいろ

紅

コウ  
くれない  
べに

工という色です。糸は、色を染めて使います。だから色の名には、よく糸を部品に使います。これは「くれない」色です。あざやかな「あか」です。紅白玉入れ。

紫

シ  
むらさき

此という色で、「むらさき」のことです。紫綬褒章

緑

4年  
リョク  
みどり

糸という色で、「みどり」色のことです。緑青。ほかに、紺、緋などがあります。

肛

コウ

月は、肉をかんとした形で、月の月と形は同じですが、意味がちがうので「肉月」といい、「筋肉」の意味に使います。肛は、工という名の筋肉です。

の筋肉です。

このように、攻、巧、江、紅、肛などの字は、すべて「工」という発音の字であることがわかるのです。漢字の八、九割までが形声文字だとすると、漢字を見たら、すぐ意味の部分と発音の部分とを見分けることがたいせつです。部品によって、意味を表すものと、発音を表すものとは、おおよそ決まっていますので、それをおぼえたいへん便利です。たとえば、工は、ふつう、右がわにあって音だけを表しますが、左がわにあると

きは、音と意味の両方を表しています。

左がわはへんといって意味を表す

漢字が左右に分けられるはい、左の部分をへんといい、右の部分をつくりといいま  
す。へんは意味を表すものが多く、そのばあい、つくりは音を表すのがふつうです。

つぎに、意味を表すへんをあげてみます。

禾

(のぎへん)

木(禾)がへんになった形。いねが穂をたれた形。「いね」「穀物」

の意味に使われます。

秋

(2年) シュウ  
あき

火は煮物にものに使うので、「熟す」意味があります。「いねの熟すとき」  
が秋というわけ。音のシュウは、火の燃える音、シュウシュウと覚える。

私

(6年) シ  
わたくし

ムが「わたくし」の意味。私は、「わたくしの禾」、つまり、「わたくし  
の分けまえ」ということで、「自分」とまったく同じ意味。公は私の反対。

壬は主で、役人が立っている形。呈は、「お上に申しあげる」「さしあげ

る」こと。程は、「呈出する禾」、つまり租税のこと。これは、「きまり」

に従って呈出するので、規程などと使う。

種

(4年) シュ  
たね

重は重で、うが土の上に荷物を身につけて立つ形。「おもい」こと。禾  
は、質の良い、重いを選んで、これを「たね」にする、シュは重のつ

まっただもの。

積

(4年) セキ  
つつもむる

責(責任)として納める禾のこと。これは別に積んでおくので、いまは、  
「つむ」意味に使う。



んどうの意味を知らないからです。部品をしつかり覚えておいてください。

### 申はかみなりさま

雷

ライ  
かみなり

むかしの人は、神さまが鬼を使って、雲の上から水をまいている、と考えていました。夕立雨のときは、水を積んだ車をいそが忙しく走らせるので、

ゴロゴロ、音がするのだと思っていたのです。これを、神鳴りといって、「雨」と「田」⊕は車の輪の形」で、表わしました。

電

③年  
デン

雷からぴかぴかと出た光がして、電は、「いなびかり」のこと、この正体を、いまでは、電気というわけです。

震

シン  
ふるまう

雷が激しく鳴ると、大地までピリピリと「ふるえる」。これがほんどうの震で、いまでは、地震の震に使います。

●申は、雷から、いなびかりの出たところを表わしたものです。これで、神鳴りの本体である「かみさま」を表わしました。また、地祇ちぎ（土地の神）に対して天神てんじん（天の神）と  
いうようにも使います。

### (5) 意味の変わった漢字……転注文字

#### 漢字の意味は時代とともに変わっていく

漢字は、象形・指事・会意・形声の四つのどれかでできています。象形・指事が基本で、会意・形声はその応用です。しかし、その意味や使い方は、漢字ができたころといまとは、かなりちがっているものもあります。

たとえば、「山」「川」「月」「火」などは、五千年前もいまも変わりませんが、「楽（ラ

ク、ガク、たのしい」は、楽器の意味から、音楽の意味になり、安楽の意味に変わって  
います。

このように、できたときの意味と変わった使い方をしてる漢字を、「転注文字」とい  
います。車は転じて動き、川は注いで流れ、ひとところにいらないという意味つけた名前  
です。

### 「一」の字はいくつもの使い方がある

よく考えてみますと、変化のないと思われるような文字やことばでも、案外、いくつも  
の使い方をもっているものです。

「山」だって、「山場を迎える」といういい方や、「山を張る」という使い方があります。

「手」になりますと、「手が足りない」「手を貸す」「聞き手」「手づまり」「手が上がる」

「手を抜く」「手を切る」「手がたい」「手が込む」「手を焼く」「火の手」「ひしゃくの手」  
など、いろいろの使い方がきりもなくあります。

ですから、一つの使い方しかないという漢字があったら、そのほがおかしいくらい  
なものです。しかし、使い方がいくつかあったとしても、まるっきり縁のない使い方はし  
ないはずですから、その変化のしかたに注意して、これを覚えることがたいせつです。

### (6) 音を借りてきた漢字……仮借文字

#### 音を借りて表わす

金額を書くとき、「金参万円」などと書くことがあります。参は、「参加」「参拜」の参  
ですが、同じ音の三の意味に使ったわけです。

このように、漢字のほんとうの意味を捨てて、他のことばの意味を表す使い方をしたばあい、これを「仮借文字」といいます。仮に借りて使うという意味です。

「三」のばあいは、ほんとうの漢字があるのですが、字画がかんたんなので、「五」に直すこともできる心配があるので、複雑な「参」を借りてきました。しかし、言葉はあるのだが、それを表わすうまい字が作れない、というばあい、本当にこの仮借文字の価値が出てきます。



音を借りてきた漢字

## 十

①年 シュウ  
とお

この字は十で、針に糸を通した形です。「はり」という意味の字です。ところが、「じゅう」という数を表わすのに、うまい漢字が作れなかったので、「はり」という意味の十の字を借りて、これを表わしたのです。十は仮借文字です。「はり」のためには、別に金を加えて、「針」という字を作りました。

## 針

シン  
はり

十には、「シュウ」「シン」の二つの音があり、十が、数のシュウにとられたために、「はり(シン)」のために、のちに作られた字です。

### 外国語は仮借文字で表わす

外国のことはをそのまま表そうとすれば、当然、仮借文字になります。仏教用語の、「仏」<sup>ブツ</sup>、<sup>シヤカ</sup>釈迦、<sup>ヤシヤ</sup>夜叉、<sup>シユラ</sup>修羅、<sup>ハンニヤ</sup>般若、<sup>オシヨウ</sup>和尚などの文字はみな仮借です。漢字の意味には関係ありません。

## 第2章

### 漢字の部品調べ



日本でも戦前は、外国の地名・人名をつぎのように書き表わしましたが、これも仮借です。

伊太利（イタリア） 巴里（パリ） 英吉利（イギリス） 亜細亜（アジア） 華盛頓（ワシントン） 天婦羅（テン普拉） 珈琲（コーヒー） 瓦斯（ガス）

象形・指事・会意・形声の四つに、転注・仮借の二つを加えて、これを六書りくしよと呼んでおります。前の四つが文字の作り方から分類したもので、あとの二つは、使い方のうえでできた分類です。

漢字の八割から九割までが形声文字だと申し上げました。つまり、これに会意文字を加えた大部分の漢字が、象形文字と指事文字の組み合わせでできているということです。

このように、漢字の大部分をしめる形声文字と会意文字は、いくつかの部品が組み合わさられているのですから、わずかの部品を学べば、たくさんの漢字は、ひとりりでわかることになります。これが合理的な学び方というわけです。

これから、この部品(これをむかしから部首と呼んでいます。)を、(1) 人体 (2) 服装ふくせつ (3) 器具・住居 (4) 動物・植物 (5) 自然 に分けて調べてみることにします。

## (1) 人体に関する部品

### 目に関係ある字

見

(2年) ケン  
みる

● 儿は「ひとあし」といいますが、人という字の変形で、意味は人です。人は目でもものを見るので、人と目とで「みる」という意味を表わしました。

看

カン

● 手は、手の変形です。手を目の上にやるのは、ものをよく見ようとするときのしぐさですから、「よくみる」という意味になります。

看病・看護・看板などと使います。

視

(6年) シン

● ネは、神のしるしの部品です。神さまが見るように、「ものを正しくはっきり見る」意味の字です。視察などと使います。

相

(4年) あい  
シソウ  
ウ

● 「木に登って見る」「上から見てとりしめる」こと。①「たすける」や、②「目で見たようす」の意味に使われます。①のときはショウ、首

相、文相。②のときはソウ、人相、手相。

# 省

⑤年  
はかせい  
えりゅう  
みる

小さいことにもよく目をつけること。つまり、「細かいことにも気をつける」こと。反省 その結果は、不要なものは「はぶく」。省略

## 口に関係のある字

# 兄

③年  
あきけい  
に

口のすぐれた人。「先に生まれた人」の意味。

# 古

②年  
ふるい

十人の口に「いいふるされたこと」という意味の字。

# 名

②年  
な  
みよ  
う

夕は名。月が山から出かかった「ゆうがた」の意味の字です。夕方は顔がはつきりしないので、「な」を呼び合うということで、夕と口で、

# 夕

②年  
ゆり  
せき

「な」を表わしたもの。

# 問

④年  
とう  
もん

門の間から、口を開いて「声をかける」こと。

# 唱

④年  
となえる  
しやう

昌(シヨウ)は日のように輝かしく、美しいこと。「口から声を美しく出す」こと。合唱・唱歌

# 和

③年  
やわらぐ  
わ

禾は稲。稲がたくさん取れて口にはいれば「平和」で、心は「やわらぎ」ます。また、稲の豊かな国、つまり平和の国である日本の意味に使

います。和風・和歌

## 亼は「集まる」意味の部首

# 合

②年  
あう  
ごう

たくさんの口が集まって、「一致する」という意味で、「びたりとあつ」こと。同も合と同じく、「びたりと一致する」という意味で、「おなじ」

# 同

③年  
おなじ  
どう

こと。合と同で合同となります。

会

②年

あエカイ  
う

「人がたくさん集まりあう」こと。合と同じでき方ですが、会はいまは「集まり」の意味に使います。

令

⑤年

レイ

令は、天子の与えるしるし。「人々を集めて、天子の与える書きつけ」が令で、これを口でいうのが命です。しかし、いまでは、ひと口に命令

命

④年

ミメイ  
いのち

と違って区別していません。「いのち」という意味は、天命ということばがもとです。人の命は天の命（いいつけ）で、人の力ではどうにもな

らないという意味で作られたことはです。

尸とうとは人の形

后

⑥年

コウ

尸は、尸を反対にした形。尸は口から命令を出す人、つまり君王。后は、君王の命を受けて、これを人民に伝える人、つまり司令官。どちら

司

④年

シ

も人と口とでできた字です。後の音は口と同じですが、合の音もやはり口です。

包

④年

ホウ  
つつむ

勺は、人がものをだきかかえる形。包は、子どもが腹の中につつまれている形です。まがついて、「だく」意味になります。

抱

ホウ  
だく

飽

ホウ  
あきる

食べ物で勺の形になるのは、「あきる」ほど食べたから。砲は「石ゆみ」で、石を包んで、はじきとばす武器です。いちばん大きな力のある

砲

ホウ

武器ですから、大砲ともいいました。いまでは、火薬で鉄の弾丸を打つ武器をいいます。

ヒには二つの使い方があ

ヒには、**ヒ**と**ヒ**とあります。**ヒ**は生きている人の形ですが、**ヒ**は死んだ人の形です。音はヒです。

**比** (5年) ヒ  
くらべる

人がふたりいると、だれだって「くらべ」たくなります。

**北** (2年) ホク  
きた

哭なげですから、「そむける」という意味の字です。人は、お日さまのほうへ向きますから、背せなか中のほうが「きた」です。

**背** ハイ  
せ

月は肉をかんとんにした形。からだのなまえはたいいていこの月がつかます。北は「せなか」の形でもあります。ハイの音はヒが表わしま

す。ヒ(三)には、ハイとヒの発音があります。

**死** (3年) シ  
しぬ

夕ゆふはばらばらになった骨のこと。骨の上下の画を取ると、月つきになりますね。ヒひは、人が倒れて骨になるのが死です。音のシはヒのな

まりです。江戸えどっ子のようですね。

**化** (3年) ばけカ  
ばける

このヒも、です。人が死ぬこと。人が死ぬと「ばける」ということになります。これは、たいへんな「変わり」方ですから。「変化」という

意味にも使います。

**浅**(淺)は「わずか」という意味

**残** (4年) ザン  
のこる

浅は「わずか」という意味。鳥や獣けものが食べ残したわずかの骨の「のこり」のこと。

**浅** (5年) セン  
あさい

水がわずかしかないので、「あさい」という意味。

**銭** (5年) セン  
ぜに

わずかなお金です。円の百分の一です。

# 箋

セン

紙のなかったむかしは、木や竹の札に字を書きましたので、書きもの  
に關係のあるものには、木と竹がよく使われます。書き物に使う小さな

紙が箋です。便箋・通信箋

# 賤

セン  
いやしい

貝は財貨の意味ですから、財貨の少ない「身分の低い人」を意味しま  
す。

## 手の意味の部首は多い

手の意味の部首は、実にたくさんあります。又・ヨ・ヨ・ナ・寸・マ・六から、又に棒を  
持った形の又まで、たくさんありますが、たがいに似た形も多いので、覚えるのにむずか  
しいことはありません。

# 受

(3年) ジュ  
うける

㇗と又・はどちらも手です。人の手(㇗)から、自分の手(又)に、  
ものを「うけ」取ることです。

# 取

(3年) シュ  
とる

㇗かし、中国では、戦場で敵を倒すと、首の代わりに耳を取ったので、  
耳と又で、「とる」意味を表わしたのだそうです。首はいくつでも持て  
ませんが、耳ならいくつも持てます。音は手です。

# 及

(3年) キユウ  
およぶ

㇗は㇗で、人の形です。㇗の部首も多く使われます。前に行く人を  
後ろから追ひ「および」、つかまえることです。追及

取は耳を「とる」



知

## 及のつく字

及は、「つかまえる」「ひきよせる」意味があります。

## 吸

キユウ  
すう

口でひきよせることですから、「すう」という意味です。呼吸

## 汲

キユウ  
くむ

水をひきよせることですから「くむ」ことです。

## 扱

あつかう

ひきよせて、ものを身近に手で「あつかう」ことです。

## 級



3年  
キユウ

織物を織るときに、扱いやすいように、糸を身近に順序よくならべておくことです。「順序」の意味です。また、しるしをつけておくとか扱い



やすいので、「しるし」の意味もあります。

## 急

3年  
キユウ  
いそぐ

ヨはで、又の変形です。だから、急は及と同じことです。人を追及するときの心ですから、「いそぐ」ことです。

ヨとキとは使い方が違う

ヨはで、キはです。どちらも手の形ですが、新字体では、物を持つときはキ、持たないときはヨと、使い分けています。

## 雪

2年  
セツ  
ゆき

手の上に載せられる雨という意味です。つまり「ゆき」を意味しているわけです。

## 筆

5年  
ヒツ  
ふで

竹と■と■でできています。■は■で、「ふで」の形です。筆は、ふでを手にした形です。ふでは軸が竹でできているので、竹を加えまし





た。

## 書

2年  
シヨ  
かく


日は紙だと考えてください。そうすれば、書が「かく」意味だということはずぐわかるでしょう。

右と左となぜ書き順がちがうか

ナは手のしるしです。しかし、右は「ノ一」と書き、左は「一ノ」と書きます。なぜでしょう。いまは同じ形をしていますが、むかしはちがっていたのです。又は  (で、「みぎ手」の形、ナは  (で、「ひだり手」の形だったのです。又は  と書き、ナは  と書いたわけです。右は各ですから、右と書き、右となったのです。

右

①年  
みウユウ  
みぎ

ナが、 又で、右手の形です。食事のとき、口へ運ぶ手です。

左

①年  
ひだり  
サ

エは工作のときに使うじょうぎです。えんぴつを右手に持ちますから、じょうぎを持つ手は、「ひだり」手です。


差

④年  
さサ  
さす

左手は右手に比べて働きがちがう。差は、美しさに「ちがい」のあること。

友

②年  
とも  
ユウ

手と手で握手、 つまり、仲のよい「とも」の意味を表わしています。音は又です。

有

④年  
あウユウ  
ある

このナも又ユウです。ですから、音も書き順も又と同じです。月は肉です。「肉を手を持つ」こと、つまり、「肉がある」ことです。いまは、「もつ(所有)」と「ある(有毒)」と両方に使われます。

欠は口を大きくあけた形

吹

スイ  
ふく

欠は又で、口を大きくあけている形。口から息を「ふき」出すこと。いまは、「笛を吹く」「風が吹く」とも使います。

歌

③年  
ううカ  
うた  
う

丁は、おさえられていた息がすうっと出てきた形。のどにたんがからまっているとき、カーとはくと、通りがよくなります。それで、「良い」

可

〔3年〕

カ

という意味に使います。歌は、口を大きく開いて、「よい声を出す」とです。

歡

〔3年〕

カン

歡はカンという音を表わす部首。「うれしさに思わず声を上げる」ことです。歡喜とはそういう喜びです。おさえきれないような大きな喜びです。

次

〔3年〕

ツジ

二(ニ)と欠(ク)です。「ああ、いやんなっちゃった」とあくびして、二番めでまんぞくしている状態です。二は一の「つぎ」です。

女は手にものを持つ形

牧

〔5年〕

ボク

女はムで、手にものを持った形です。音はボク。  
女は、手にむちを持った形です。「牛をかう」ことです。

教

〔3年〕

キョウ

女は「コウ」という音を表わす部首です。考、孝、老。先生がむちを振り振り、子どもに「おしえ」ていることを表わした字です。

政

〔5年〕

セイ

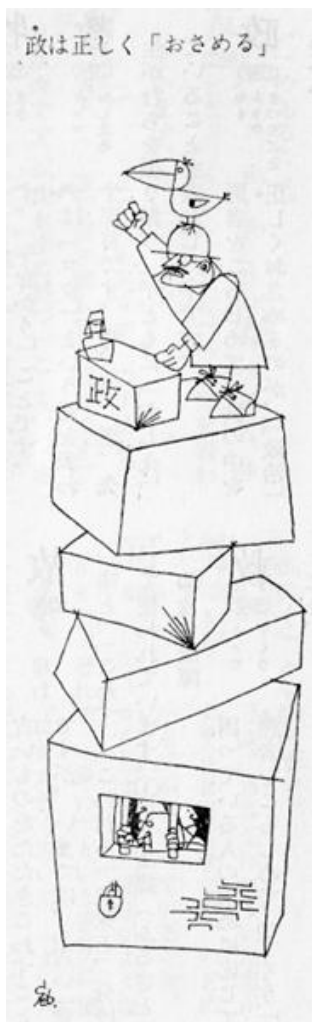
悪者をこらしめて、世の中を正しくおさめるのが、「政治」です。

改

〔4年〕

カイ

己は「自己」の意味ですが、音はカイで、細へ一八九ページのばあいと同じように、キとカイとあります。まちがった自己の心をむちうって、よい心に「あらためる」ことです。



敗

⑤年 ハイ  
やぶれる

故

⑥年 コ

救

⑤年 キュウ  
すくう

● 目をたたきこわすことで、「やぶれる」という意味です。

● 古いものをたたきこわすことですが、いまでは「古い」意味と、「こ

わす」「こわれる」意味と、分けて使われています。①古〓故郷(ふる

さと) ②又〓故障

困っている人の求めに応じて患者をこらしめて「すくう」こと。

子どもらしいおもしろい考え

新しい漢字は、新しい見方をしなければ、記憶の手がかりにはなりません。つぎの字は、

子どもたちが考え出した説明です。

数

③年 スウ  
かかず  
かぞえる

● 米と女と夕でできています。女中さんが、手にますを持って、お米を

一ぱい、二はいと「かぞえる」のだということです。女は、おかあさんに

見たてもよいですね。

散

④年 サン  
ちる

● 敗は、肉をたたいて、「こなごなにし」、食べよくすることです。井は

サンの音を表わすしるしだということです。なるほど、そうも見えます。

女と欠とをよくとりちがえて書く人があります。意味がまるつきりちがうのですから、

これでは困ります。たとえば、

飲

④年 イン  
のむ

を飲と書いたのでは、「大きな口をあけて、食べ物を飲みこむ」意

味には、どうしてもなりません。「食べ物をつたく」ことになってし

まいます。

牛と牛を書きちがえやすい

牛は牛へんで、牛は手へんです。手と牛と書きちがえやすいように、牛と牛も書きちが

えやすいようです。しかし、意味をよく考えたら、書きちがえるはずはありません。

**指**  
3年  
ゆび

旨の日は甘の変形。「あまい」とか、「うまい」とかいう意味の字です。

音はヒ(シ)はヒのなまり、死と同じ(じ)です。うまいものは、「ゆび」で

ついつまんでしまいます。手と旨とで「ゆび」を表わしたのは、うまい思いつきですね。

**脂**  
シ

「うまい肉」という意味の字です。「あぶらぎった肉」がおいしいので、「あぶら肉」という意味になります。いまは「脂肪」といって、「あぶら」の意味に使います。

**持**  
3年  
もつ

音はジで、「手に物をもつ」という意味の字です。

**寸**  
スン

「寸」で、「又と」でできた字です。手首から、ちょっと上がったところにある脈はくを表わした指事文字です。むかしは、手首から脈はくまでの長さを「一寸」といい、長さの単位にっていました。部首としては、「基

準」とか、「標準」の意味に使われます。

**導**  
5年  
ドウ  
みちびく

基準に従って「道案内する」ことです。

士と寸です。世の中の基準を決めるところが寺です。いまの「政府」

**寺**  
3年  
てら

とか、「役所」とかにあたることばです。むかし、役所の建物を、「○○

寺」と呼んだのですが、のちになって、「おてら」のりっぱな建物をも「○○寺」と呼ぶようになり、いまでは、「てら」の意味になってしまいました。

**侍**  
シ  
やぶひ

寺の人、つまり「役人」のこと。「やむらい」です。

むかしは、日の動きで「とき」を計りました。日は、ときを計る基

**時**  
2年  
トキ

準(寸)なので、日と寺で、「とき」を表わしたものです。子供には、

お寺で、日の出、日の入りに、明け六つ、暮れ六つの鐘を鳴らして、「と

き」を知らせた、ということ、理解させたほうがわかりやすいと思います。

㇗は爪で「手」の意味

採 (6年) サイ  
とる

採は、㇗と木で、「木をつまむ」こと。のちに、さらに手がつきまし  
た。

菜 (4年) サイ  
な

艸は艸で、草のことです。「つみ取って食べる草」が菜です。

拾 (4年) シュ  
ヒョウウ

人は「集める」こと。拾は、「手でかき集める」ことです。両手を使

うことから、両手の指の数の十を表わすようになりました。音のシュウ

は、手と口とでできませんでした。

技 (5年) ギ

支は十と又で、「たくさんのを一手にまとめる」ことで、また、

反対に「一つの手から、たくさんに分かれ出る」意味にも使います。支

点は前者、支店は後者の意味です。技は、いろいろなものをとり扱う手わざ、腕前」とい  
う意味です。

枝 シ  
えだ

この支は、「一つのものから、たくさん分かれ出る」意味の支です。

一本の幹から分かれ出た「えだ」です。

拜 (6年) ハイ  
おがむ

むかしの拜という字が、拜から拜となり、いまの字形になりました。

丁は、むかしの下という字です。「両手をそろえて下げる」ことで、「あ

いさつ「や」おがむ」ときの動作です。

𠄎は両手の形です

両手をそろえた形の𠄎が𠄎となり、𠄎となりました。音は、キョウまたはクで、ときに

は、コウとかキョとなまることもあります。

共 (4年) キョウ  
とも

𠄎。ふたりで𠄎をさし上げている形を表わしています。「いっしょに

という意味です。

供

(6年)

キヨウ  
クモ  
そなえる

● 共に人がついて、「いっしょに仕事をする人」という意味になります。このことから、「手助け」「けらい」「おとも」などの意味に使われます。

また、共と同じく、「さし出す」「おそなえする」意味にも使われます。

具

(4年)



ゲ

具。道具を両手でささげる形を表わした字で、共や供と同じように、「おそなえをする」意味と、「道具」という意味とあります。

興

(5年)

キョウ  
コウ  
おこる


興の古い形はで、と同じように、両手の形を表わしたものです。興は、だから「四人の手」です。四人が共同して、仕事をするこゝで、みなが力を合わせれば、仕事はしぜんとさかんになります。そこで、「おおぜいっしょになって、仕事をさかんにする」意味に使います。興行・興起

止・止は足のしるし

止

(3年)

シ  
とまる

止 (止) は、足のうらを表わしたものです。人のとどまり立つところだというのが、「とまる」意味に使います。部首としては、足の形で使われることが多く、足のしるしとして使います。

歩

(2年)

ブヨ  
あるく  
あゆむ

● 少はもと少で、止の反対の出です。右足の形です。ですから歩は、右足の前に左足を出した形で、「あるく」「ことを表わしています、

足

(1年)


ソク  
あし  
たがる

● □と止できています。□はひざがしらの丸い部分を表わしています。「ひざがしらから足のうらまで」を足ということです。ひざからは腿ももで、足ではないわけですが、いまだ、あまり区別をしません。

走

(2年)

ソウ  
はしる

● 土は「つち」ではなくで、人のはしる形を表わしたものです。しかし、土だけでは、つちと同じ形になりますので、区別するために、土をつけました。歩と走をよくまちがえ、歩や走と書く人がよくありますが、成り立ちとそ

の意味を考えれば、まちがうことはありません。

### 𠂔は両足をそろえた形

𠂔は「発がしら」と呼ばれています。発という字の頭に使われているからです。この形は、祭という部首に似ているのでよくとりちがえられます。しかし、成り立ちを知ったら、絶対にまちがえなくなります。

𠂔

(3年)  
ハツ  
ホツ

𠂔は𠂔で、両足をそろえた形です。二にみち両足をそろえたのは、これから「出かける」ことを意味しています。儿は、反対に反り返った形で、「反撥」とか、「別れる」意味を表わしています。音はハツまたはハチです。数字の八もこれです。

登

(4年)  
トウ  
のぼる

両足をそろえて、一方の足を前に踏み出せば登となり、上に踏み出せ

ば登になります。高いところに「のぼる」のが登です。音は豆トウです

祭

(4年)  
サイ  
まつる

祭は、肉を右手に持った形です。示は、二(天)から、神さまがいろいろの現象を地上に下して、神の意志を「示す」という意味の字です。部首としては「神さま」の意味に使います。祭は、「神さまに肉をお供えする」ことを表わした字で、「神をまつる」ことです。この成り立ちがわかれば、よくあるような、祭・祭というような字は書かなくなります。また、祭・登という字もなくなります。

### 彳は道のしるし

行

(2年)  
コウ  
ギョウ  
ウ  
ア  
ン  
イ  
ク  
オ  
ク  
コ  
ナ  
ウ

𠂔↓彳↓行 この字は道路の四つかどを表わした字です。道路は人

の歩いていくところですから、「いく」という意味を表わしました。また、「人のおこない」という意味にも使います。

術

5年

ジュツ

・<sup>ジュツ</sup>行と朮でできた字です。行のほとんどの意味の道という意味に使います。敵に勝つ道はこれだけしかない」というように。道は、「やり方」「方

法」という意味にも使います。それで、術は「方法」という意味に使います。武術。

衛

5年

エイ

・行と韋でできています。韋は<sup>世</sup>の変形の<sup>五</sup>とその反対の<sup>子</sup>でできています。足の向きが反対ですから、「すれちがう」、または「ちがう」意味

を持った部首として使われます。衛は、「道を行ったり来たりする」ことで、パトロールの意味です。人々の「安全を守る」ことです。韋の音はエイまたはイ。護衛。

## 韋のついた字

緯

イ

織物の「横糸」のことです。どうしてか、わかるでしょう。横糸は縦糸(経)に対して、行ったり来たりして織られているからです。地図で、

南北を縦に結ぶ経線に対して、東西に平行に引かれた線を緯線というのは、この横糸の意味です。

偉

イ  
えらい

この韋は、「ちがう」意味に使われています。「ふつうの人とちがった人」という意味で、「えらい人」をいいます。

違

イ  
ちがう

・<sup>違</sup>は、「道を歩いていく」意味の部首ですから、「すれちがう」「行きちがう」という意味に使います。いまは、「道をまちがえる」というように、ものごとが「ちがう」という意味に使われます。

<sup>辵</sup>は道と足とでできています

この古い形は、<sup>辵</sup>です。<sup>辵</sup>は、<sup>彳</sup>の変形で、行の省略された形です。つまり、<sup>辵</sup>「みち」の意味を表わしています。<sup>止</sup>は足の意味を表わしています。だから、<sup>辵</sup>は、「道を歩

いていく」意味の部首です。

**返** (3年) ヘン  
かえす

●反は「もの裏がわに手(又)を入れて、ひっくりかえす」ことです。「反対」というように使います。返は、「いま来た道をもどる」ことですが、借りたものを「かえす」というばあいにも使います。ヘンの音は、

ハンの変化したものです。

**運** (3年) ウン  
はこぶ

軍は夨で、「軍隊」という意味の字です。軍隊は、武器や食料を車に積んで、それをまん中にして行軍するので、車を囲んだ形で、これを表わしました。これに「辵」がつくと、武器や食料を「はこぶ」意味になります。運の音は軍655の6が取れてウンとなったものです。

**近** (3年) キン  
ちかい

斤は僅(わずか)の意味。道をわずか歩いただけで行けるところは「ちかい」ところです。

**遠** (3年) エン  
とおい

袁は延(ながい)の意味。道を長いこと歩いていくところは「とおい」ところです。

**迷** (5年) メイ  
まよう

米(マイ)は、「八方に分かれる道」の形に似ていますね。こんなに分かれている道では、どの道を行ったらよいのか、だれだって「まよう」

でしょう。

**進** (3年) シン  
すすむ

佳は音を表わしています。意味は、「進」で、「道を歩いていく」ことで「進」を「シンニョウ」というのは、これが進のニョウだからです。

**退** (6年) タイ  
しりぞく

●良のもの形は、退です。又は止の変形で、下向きの形です。だから夏は、日が下に向かって「しずむ」ことを表わしています。退は、進の反対で、「家にもどる」こと。つまり、「しりぞく」意味の字です。

逆

〔6年〕

ギヤク  
さからう

逆はギヤクで、人がさかさまになった形です。逆は、「道を反対の方向に歩いていく」ことです。逆行

追

〔3年〕

ツイ  
おう

追はツイで、がけの形を表わした部首です。悪い人をおいかけて、がけに「おいつめる」意味を表わした字です。

辺

〔5年〕

ヘン

「刀をもって道を歩いていく」という意味の字です。そういうところは、「遠い未開の土地」です。または「国境」です。いつ、なにに襲われるかわからないからです。辺地・辺境

速

〔4年〕

ソク  
はやい

速は木と〇でできた字で、「木をたばねる」意味の字です。速は、「木を束ねて道を歩いていく」ことを表わしています。木を運ぶには、木をばらばらで運ぶよりも、束ねて運んだ方が、「はやい」わけです。

述

〔6年〕

ジュツ  
のべる

術と同じ成り立ちです。だから述は、道に従って歩いていく」という意味の字です。道というものは自分で作って自分で利用するものではなくて、むかしの人がつくったものを、利用するものです。そのように、自分で新しい意見を出さずに、むかしの人のことばを「のべ伝える」ことを述というようになりました。孔子が、「述べて作らず」といったのは、この意味です。

## 言のついた字は多い

討

〔6年〕

トウ  
うつ

寸（一六九ページ）は、「基準」の意味の部首でした。「きまりに従って言いあつ」のが「討議」「討論」です。このばあい、相手の欠点をすばやく見抜いて、それを責めることがたいせつです。それで今は、「責める」意味から、「攻める」意味にも使います。討伐

詩

〔4年〕

シ

寺（一七〇ページ）は、「基準を決める役所」のことでありますが、ここで

証

⑥年 ショウ

は「基準」の意味です。「言(ことば)の数やならべ方・使い方に決まった基準のある文」を詩というのです。五七調や、七五調の新体詩は詩ですが、決まりのない自由詩は、詩という名に反しています。

正

①年 ショウイ  
ただしい

正は、一と上で、「止まるべき線」を表わした字です。もちろん、とまるべき線とは、「ただしい」ところです。証は、「正しいことを、言(ことば)で受け合うこと」です。

評

⑥年 ヒョウ

平は平で、水面に浮かぶ水草の形を表わします。水草は、表面が「たいら」なので、「ひらたい」意味に使います。評は、どちらにもかた

平

③年 ヒライ  
ひらい  
ひらたい

むかない、「公平な言(ことば)」のことです。だから、えこひいきのある批評は、批評といえないわけです。

試

④年 シ  
ごころみる

式は、セとエでできています。弋は「目じるし」の意味の部首で、よ

式

④年 シキ

く使われますから、覚えておいてください。

式は、「工作するときの目じるし」、「つまり、「手本」のことです。方式・格式などと使われます。試は、「方式に従って言うてみる」こと、「ためしてみる」という意味です。

認

⑥年 ニン  
みとめる

忍は、刃(ニン)と

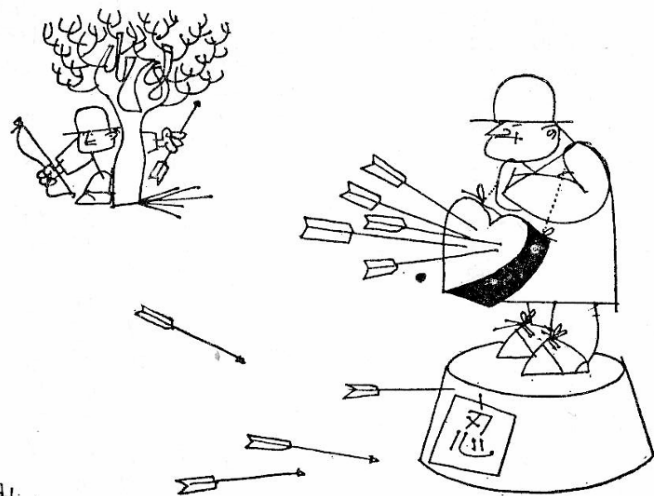
心で、「心を傷つける

こと」です。がまん

きないことでも、じつ

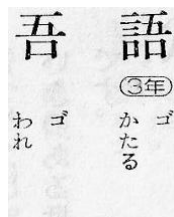
忍

ニン  
しのぶ

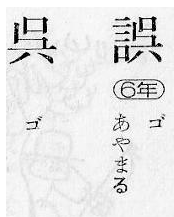


忍は心を傷つけること

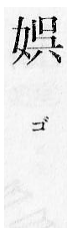
と耐え」「しのことです。」「心にきぎぎむ「こと。認は、」心の中でよろしいとみとめたう  
えで、よろしいと言つ」ことです。これに対して、単純に「よろしいと口で言つ」のは  
許です。



吾は、口で、「自分」という意味を表わしたものです。五はミで、右  
手の形です。指の数の「いつつ」を表わしています。吾の音は五。ゴ語は、  
「吾われ(自分)がものを言つ」ということで、人に「かたる」ことで  
す。

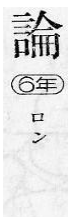


呉は、手ぶり身ぶりでおしゃべりしている形です。じつと見ていれば、  
いかにもそう見えてくる字です。中国の南方にあった国の名に使われて  
います。誤は、「おしゃべりの言(ことば)ですから、「あやまり」が多  
いのはあたりまえです。

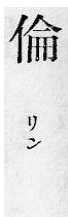


「女の人がおしゃべりしてたのしむ」ことです。娯楽

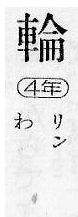
侖は「筋道」という意味



侖(ロン)は、「筋道がきちんと整っている」という意味の部首です。  
論は、だから、「筋道の通った言(ことば)」という意味になります。



「人として当然行わなければならない道徳」という意味で、一口に言  
ったら「人の道」ということです。



車の侖は、「わ」です。なぜかといいますと、わの中心にすじがきち  
んと集まって、できあがっているからです。

爰は手にもものを持つ形

**設**  
(5年)  
 セツ  
 もうける

● 爰の又は、右手です。手に物を持った形が爰です。ですから、「仕事を  
 する」という意味があります。設は、「人に言いつけて、仕事をさせ  
 る」こと。「人を使って、ものごとを整える」ことです。

**役**  
(3年)  
 エキ  
 ヤク

「出かけて行って仕事をする」ことです。「義務としてしなければな  
 らない仕事」の意味に使われます。

**投**  
(3年)  
 トウ  
 なげる

「手でする仕事」という意味で、「なげる」ことを表わしました。

成と茂との関係

**誠**  
(6年)  
 セイ  
 まこと

● 戈は、「武器」「切れ物」の象形文字です。よく使われる部首です。

**成**  
(4年)  
 セイ  
 ジョウウ


● 茂は、「刈り取らなければならないほど草がしげる」という意味の字  
 です。成は戈と丁とできています。茂の意味で、「草木の茂り、栄

**茂**  
 モ  
 しげる

える」という意味の字です。だから、ものごとの「りっばにできてあがる」  
 という意味に使います。音は丁チヨウがなまってジョウウになりました。ジョ

ウは呉音で、漢音はセイです。● 誠は、成功するために必要なものは、いつわりのない言(こ  
 とば)である、という意味で、「まこと」という意味を表わしました。まことまことというこ  
 とは、「ほんとうのことば」ということからできたことばです。漢字で表わせば、「真言まこと」で  
 す。まことまことの人はかならず成功します。

**盛**  
 セイ  
 ジョウウ  
 さかり  
 ある

皿はで、「やう」の象形文字です。皿の上にものがいっぱい盛られ  
 ていることを表わした字です。「もる」という意味と、「さかん」という  
 意味とに使われます。

## (2) 服装に関する部品

ネとネとはたいへんなちがい

ネとネと、よく書き誤られます。たとえば、初を初と書く人がよくあります。これなど、ネとネの意味を知り、初の意味がわかれば、けっして書き誤ることなどないでしょう。

衣

(4年) イ  
ころも

衣で、着物の上の部分の象形文字です。ネは、衣をへんにした形です。ネは、

示をへんにしたかたちですから、「しめすへん」といい、神さまのしるしに使いますから、形は似ていても、たいへんなちがいがあります。

裳

シヨウ  
もすそ

裳は上で、「上に加える」意味の字です。衣を着て、その上に裳をはくのです。むかしはこれを「も」といいましたが、いまでいえばスカ

ートです。衣と裳で、一組の着物になるので、着物のことを「衣装」というわけです。

表と裏

表

(3年) ヒヨウ  
おもて  
あらわす

衣の間に土(毛で毛の象形文字)を入れた字です。むかしは、獣の毛皮を身につけましたが、毛のほうを「おもて」に「あらわす」ので、毛と

衣とで、「おもて」「あらわす」という意味を表わしたのです。

裏

ウラ

これと同じ考え方で、衣の間に、里(城壁に囲まれた内がわが里なので、内がわの意味)という字を入れて、「衣の内がわ」という意味

を表わしました。裡と書くこともあります。いまでは、表も裏も、衣に関係なく使います。

着物をつくるには、まず形をとって、切ること(截断)から始めます。

初

(4年) ショ  
はじめ  
ははつめ

それで、衣と刀とで、「はじめ」という意味を表わしました。これで、初

と書いてはいけないことがわかるはず。これでは、「神さまを切る」ことになり、さつそく罰ばちがあたって、0点です。

## 俵

〔5年〕  
ヒヨウ  
たわら

人の表へですから、「着物」のことですが、いまでは、人の着物を俵へと  
いわず、「人の命を養ってくれる米」を尊敬そんけいして、「米の着る着物」を俵  
といいます。すもうの土俵は、米俵に土が入れているから「土俵」というのです。

復は日に意味がある

## 複

〔6年〕  
フク  
フク

復フクは、合あと又また（止とど）で、「ものの重なる」ことを表わした部首です。  
つまり、やねへの下したの曰ひが、ほんとうの意味を表わしているたいせつな部分  
です。複は「布地を重ねて作った衣」という意味で、ああわわせせのこととです。ひひととええは一重じゅうと  
いうことばですが、複衣フクイに対して単衣タンイと書きます。単はシングル、複はダブルにあたりま

す。いまでは、衣イに関係なく、重かさなり合あった意味で、複雑フクザンなどと使います。

## 復

〔5年〕  
フク  
フク

復フクとまちがえやすいのが復フクです。しかし、イいが道みちのしるしですから、  
復フクは、「同じ道を重ねていく」こと。つまり、「行った道をかえる」こと  
です。だから、往復フクフクというように使います。

## 腹

フク  
はら

月つきは肉にくのしるしで、からだの部分の名前に使われるしるしです。腹はらは、  
「内臓ないぞうの重かさなっているところ」、つまり、「はら」です。

巾はぬのきれ

巾フクは「ぬのきれ」の象形文字で、とてもよく使われる部首ですから、ぜひ覚えておかな  
ければならないものの一つです。

布

5年

フ  
ぬの

いまは、巾の意味に使われていますが、もとの字は巾より上等なぬののことでした。もとの字は、父と巾を合わせた希という字だったのです。ハが取れて希となったものですから、「ノ」というように書かないで、「ノ一」という順序に書くわけです。「父の使う巾」ですから、「上等のぬの」のわけですね。

希

5年

キ

父と巾とを合わせた希という字です。父は、刺繍の象形です。ですから希は、「刺繍の飾りのあるきれいな巾」です。こういう美しい布はたくさん作れませんので、「少ない」という意味と、だれでもほしがるところから、「ぞむ」意味に使われます。希少価値・希望

長は「ながい」ではない

長

2年

チヨウ  
ながい

長は、ながい毛の老人が杖をついている形を表わした字です。「年長

帳

4年

チヨウ  
ウ

者」という意味で、「すぐれた」「りっぱだ」とい

うのがもとの意味です。校長の長も、そういう

意味で、「ながい」の意味ではありません。

帳は「ながい布」という意味です。商店でお

かんじょう

金を勘定するところに、外から見えないよ

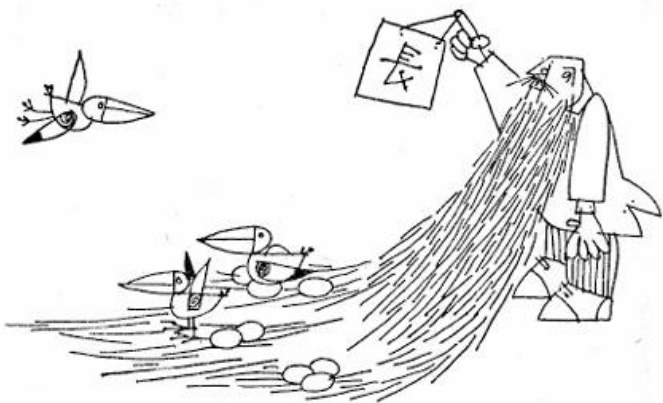
うに長い布をはったので、これを帳場といい、

この帳場で使う書きつけが、帳簿です。帳づ

らを合わせるという、帳づらを、漢字で帳面

と書き、いまの帳面ということばができました

た。帳面は帳場で使うものですが、いまでは、



長い毛の老人が長

ノートの意味に使います。

## 脹

チヨウ

長は、「大きくなる」「ふくらむ」意味にも使われます。脹は、「筋肉が

## 張

5年  
チヨウ  
はる

ふくらむ」「はれる」という意味に使われます。張は、「弓をはる」ことです。弓を引き絞ると、大きくふくらむからです。

常はスカートのことです

## 常

5年  
ジョウ  
つね

裳の衣が巾になった字です。もとの意味は裳と同じです。ですから、

スカートのことで、女の人の平常着（ふだん着）です。それで、「つね

（ふだん）」という意味に使われるようになりました。平常・日常。また、「変わらない」

という意味にも使います。恒常

## 席

4年  
セキ

座と巾でできています。人のすわるところには布を敷くので、「人の

すわるところ」を席というのです。座席

## 帯

5年  
タイ  
おびる

むかしの人は、腰にひもをまいて、これに七つ道具をぶら下げました。

これが卍です。また、別に、手ぬぐいを腰にぶら下げましたが、これが

巾です。帯は、「身につける」「つまり、「身におびる」ことですが、腰にまく「おび」と

いう意味にも使います。おびということばは、身におびる、ということばからできたこと

ばです。

## 幅

フク  
はば

幅は寛ぐ、「いっぱい」の意味があります。「布がいっぱい」とは、「布

のはば」のことです。副・幅・福のちがいを、しっかり覚えてください。

莫はタぐれの意味

莫は卍と卍の間に日がある形ですから、「タぐれ」の意味の部首です。

## 幕

バク  
マク

昼でも、夕ぐれのように、家の中を暗くさせる働きのある中が、幕です。幕の音は、莫(モ)の変化したものです。

## 慕

ボ  
したう

心は心の変形で、あしによく使われる形です。下にあるので「したころ」と呼ばれています。慕は、「夕ぐれの心もち」です。人が

「したわしく」なるのは、よいやみ迫るころだというのは、いまもむかしも変わりありません。

## 募

ボ  
つゝる

「つゝり集める」ことを募集といいます。広く求めて、日のくれるまで、努力するものですから、莫と力で表わしました。有名校では、そんなに努力をしなくても人が集まりますから、「募集」というのはおかしいわけです。でも、受付に夕ぐれまでがんばってもとても終わることができないので、やはり募集ということになりますか。などと、ぶっつような刀を使わないように。

## 墓

6年  
ボ  
はか

これは、人生の夕ぐれです。土の中の暗いところ、つまり「おほかた」です。

## 暮

ボ  
くくれる  
くらす

莫だけで、「くれ」の意味ですが、幕・慕・募・墓など、いろいろまぎらわしいので、「日ぐれ」には日をつけたわけです。いまは、「年の暮れ」というようにも使います。

## 糸は色を表わす

糸は、より合わせた「いと」の形を表わした字です。糸は、人間生活にたいせつなものですから、部首としても、よく使われます。

## 絵

3年  
エ  
カイ

会は合と同じで、「あう」という意味の字です。糸(一四八ページ)は「色」を表わしています。ですから絵は、「色を合わせる」ことで、

つまり。「え」のことです。たくさんの色を組み合わせて、はじめてりっぱにできあがります。

紙

②年

シ  
かみ

氏はシの音を表わしています。むかしは、絵で文字でも、絹きぬを使いました。これが紙です。いまでも絹を使うことがありますし、いまの紙だって、材料は繊維せんいですから、「糸へん」でおかしくはありません。

紀

⑤年

キ

己こはこで、糸の曲がりくねった象形です。紀は、「糸すじ」という意味ですが、「筋道」「きまり」という意味に使われています。

糸と細とはもとは同じ

細


③年

サイ  
ほそい  
こまかい

田たはサイという音を表わすしるしで、形は田と同じですが、もとは畝ほで、全然ちがうものです。糸いとの音は、いまはシですが、もとはサイもシ

も同じ音だったのです。サイがつまればシになり、シが伸びればサイになります。ローマ字の「i」がそうです。アイと発音したり、イと発音したりします。英語の signサインに、oilオイルをつける時、signalシグナルになると、まったく同じです。むかしは、糸も細も、同じ発音で、同じ意味に使っていたのですが、のちに「いと」そのものは糸、糸の「ほそい」意味は細と使い分けるようになったものです。いまでは、ほそいと似た「こまかい」という意味にも使われます。

田サイは頭の形です

細の田は、で、実は頭の形を上から見たところです。音は、サイとシとあることは前にもお話したとおりです。

**思** (2年) おも<sup>シ</sup>う  
**心** (2年) こころ<sup>シン</sup>

田は「頭」の意味で、この字では、意味も音も使われています。心は心で、心臓の象形文字です。「心臓」という意味がもとの意味で、「ころ」という意味にも使います。心臓が止まると、「こころ」の働きが止まるので、むかしの人は、思考作用は心臓にあるのだと考えたからです。思は、田(あた)と心(心臓)とで、思考の意味を表わしました。

### 売には二つの意味がある

**続** (4年) つづ<sup>ゾク</sup>く

売●は賣と賣との略字です。賣は、「品物をつる」ことで、賣は、切れないように続ける」ことです。形はともよく似ていますが、意味はまるきり違います。続は、「系が切れずに長く続く」という意味の字ですから、この売は賣のほうで、賣ではありません。

**読** (2年) よ<sup>ドク</sup>む<sup>トク</sup>

この売も、賣ではなくて、賣です。「言(ことば)がとぎれないように、つづけてよむ」ことです。だから、わからない漢字が多くあって、つかえつかえよむのは、「読む」とはいえないわけです。ドクの音は賣のなまりです。

**結** (4年) ゆ<sup>ケツ</sup>む<sup>ケツ</sup>す<sup>ケツ</sup>ぶ<sup>ケツ</sup>  
**吉** キチ<sup>キチ</sup>  
**士** (4年) シ<sup>シ</sup>

切れた系でもむすぶと「りっぱ」に役立ちます。吉は、「士の言(ことば)」という意味の字です。「りっぱだ」という意味です。士は、一を聞いて十を知る、というような「才能のある人」という意味の字です。「りっぱな人」、または「役人」の意味に使われます。

### 聖という字

**経** (5年) へ<sup>ケイ</sup>る<sup>ケイ</sup>

緯の横系に対して、これは、「たて系」のことです。織物は、これが基になりますから、「たいせつなもの」の意味にも使います。中国では、

もつとも基本となる書物を経書とか経典とかいい、仏教の大切な書物は、経文とか、お経とかいいました。このばあいの経は、「たいせつ」という意味です。圣という部首は「たてに通ったすじ」という意味を持っています。

## 莖

ケイ  
くぎ

艸は草花のしるしです。草花の縦に通った筋は「くぎ」です。

イは道のしるしですから、「まっすぐに行ける近道」という意味で

## 径

ケイ

す。本道に対して、「せまい小道」です。円の直径は、円の中心を通

るまっすぐな線です。

## 軽

4年  
ケイ  
かるい

「径(みち)に沿って、まっすぐに早く走れる車」という意味で、「かるい」意味を表わした字です。「軽快」というように使います。

## 終

3年  
シユウ  
おわる

冬は一年の「おわり」だから、終は「系のおわり」という意味の字になります。つまり、「系どめ」「玉むすび」のことなのですが、いまは、

系に関係なく、ものごとの「おわり」の意味に使われています。

## 冬

2年  
トウ  
ふゆ

シは、もとづて、氷のしるしです。冬は、退で説明したように、■の下向きの形です。月日がだんだんと進んで、氷の張る季節になる、とい

う意味を表わした字です。

## 練

4年  
レン  
ねる

東はいまは東と同じ形をしていますが、もとは東で、東とハでできています。ハは「分ける」意味があります。「東の中からよいものを選

り分ける」ことが東です。練は「束ねたたくさんの系の中から、選び出したりっぱな系」という意味です。「よくねった系」がりっぱな系ですから、いまでは、「ねり系」または「糸をねる」という意味に使い、「きたえる」という意味にも使います。

貝はお金のしるし

貝は一三七ページにあるように、象形文字です。中国大陸では、むかし貴重なものとして扱われたので、「お金」の意味に使われています。音はバイです。

買

③年  
バイ  
かう

■は、「物を集める」「手に入れる」という意味の部首です。ですから、「お金と引き換えに、品物を手に入れる」ことを、買と書くのです。音

は貝バイです。

売

③年  
バイ  
うる

もとの形が賣であることは、一九一ページで述べたとおりです。士は、出の略字です。売は、「買った品物を出す」という意味で、商売の実際をよく表わした字ですね。この字の音も貝バイです。

貯

⑤年  
チヨ  
チヨ

貯は今で、家の中に物をたくわえる意味の部首です。音は丁チヨウのつまったものです。貯は、「お金をたくわえる」ことですが、いまでは、貯水などとも使いますので、お金のばあいは、貯金というようになりました。

### 才は「若木」という意味

財

⑥年  
ザイ  
ザイ

●才は、「木が根を張り始めた形」を表わした字です。これから大きくりっぱに成長する「もと」を意味していますので、「素質」「能力」の意

才

③年  
サイ  
サイ

味に使います。財は、「働きのあるお金」という意味を表わしています。

資

⑥年  
シ  
シ

●次と貝シでできています。資は「命の次にたいせつなお金」という意味。仕事のもつでに使うので、資本というように使われます。

賞

⑤年  
シヨウ  
シヨウ

●尚シヨウと貝シでできています。尚は、すでに、裳や常で習ったように、上という意味の字です。賞は、「ほうびとして、上の人からたまわるお金」(いまでいう賞金)「という意味の字です。いまは、広く「ほうび」の意味に使います。

堂

④年  
ドウ  
ドウ

●尚は尙で、りっぱな家の形でもあります。堂は、「土を高く積んで、その上に建てた家」、つまり、「りっぱな建物」のことです。お寺の本堂

や、学校の講堂などに使われています。堂の音は尚シヨウのなまったものです。

## 費

〔4年〕

ヒ  
ついやす

弗ヒは、非ヒや否ヒと同じで、「そうではない」という打ち消しウチケシの意味の字です。費は、「お金がなくなる」「お金をつかいはたす」という意味です。

### 壬という部首

## 賃

〔6年〕

チン

賃金とは、「人としての務め（任務）」に対して支払シハラわれるお金」のことです。壬ニは、で、「人の腹部に●をつけて、おなかに赤ちゃんがいる」

ことを表わした指事文字です。壬の音は人（ニン）です。

## 妊

ニン

壬が「妊娠」の意味ですが、これに女ニをつけたのが、妊です。

## 任

〔5年〕

ニン  
まかせる

壬（妊娠）は、婦人の「人としての務め」ですから、「務め」という意味に使われます。任務。また、それは、婦人だけにまかせられた務

めだというので、「まかせる」という意味にも使います。これで、「賃金」の意味がよくわかると思います。

### 弋は目じるしというしるし

## 貸

〔5年〕

タイ  
かす

代は、「世代がかわる」という意味の字です。だから、貸は、「次の世代へおくるお金」、つまり、遺産の意味の字です。それは、「ただでゆず

るお金」ですから、「ちょっとの間だけ、ただでゆずる」こと。つまり、「かす」意味になったわけです。

## 代

〔4年〕

ダイ  
よかわる

弋・は、地面に目じるし・に立てた・くの象形文字です。代は、「かわりだ・というしるし・をもった人・」という意味の字です。しるし・がないと、ほ

んとうに代人かどうかわかりませんから。

賀

(5年)

ガ

加は、「口(ことば)の足りないところを努力しておきなう」という意味で、口と力できています。つまり、「口をくわえる」ことです。賀

加

(4年)

カ  
くわえる

は、「お金を加える」、つまり、「人にお金をおくる」ことで、それは、自分の喜びの心を表す」ことを意味しています。

賛

(5年)

サン

夫は夫で、帽子をかぶった「一人まえの男子」を表わした指事文字です。いまでは、夫妻・夫婦というように、「おっと」の意味に使います。

夫

(4年)

フ  
おっと

賛は、「一人まえの男子が、ふたりもそろって、これはりっぱな貝だ」とほめたたえる」意味の字です。「ほめる」、また、「助ける」意味に使

います。

### 責の意味は主にある

責

(5年)

セキ  
せめる

主は、束の略字です。束は、「とげのある木」で、「刺す」「せめる」

は、「当然すべきことを人に求める」ことなので、「義務」の意味にも使います。

績

(5年)

セキ

「糸をつむぐ仕事」です。この仕事は休みなくせめられるようにするので、責という字が使われています。また、「仕事」「できばえ」とい

う意味にも使います。

貧

(5年)

ヒン  
ますしい

分は八と刀とで物を二つに切りわけることを表わした会意文字です。お金は分けると、少なくなってしまう。それで、分と貝とで、「お

分

(2年)

フ  
ブン  
わける

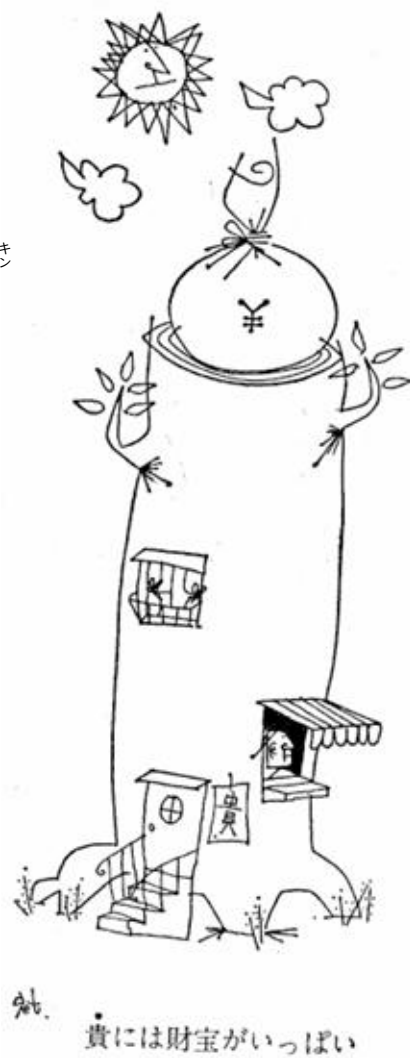
金の少ない」意味を表わしました。

貴

(6年)

キ

車は車(車)の略字です。貴は、「人が両手にいっぱい財宝を持つ」ことを表わした字で、「身分の高い人」を表わしたものです。



# 金

〔1年〕

かコキン  
ね

が、のち、黄金の意味となりました。

今と<sup>キン</sup>土でできた字です。土は、金属が土の中まじっていることを表  
わしたものです。金の音は今（<sup>キン</sup>）です。一般に、鉱物をいっていた

# 銀

〔3年〕

ギン

良（<sup>ギン</sup>）は、「下」という意味の部首です。銀は、「金の下の金属」  
という意味になります。

# 根

〔3年〕

ね コン

木の下の部分、つまり、「ね」のことです。

# 恨

コン  
うらむ

「心の底からうらみに思う」という意味の字です。「根にもつ」とい  
ううらみ方です。

# 銅

〔5年〕

ドウ

金と同じような色つやがある金属なので、「金と同じ」という字でで  
きました。金は黄いろっぽいので「黄金」、銅は赤みがあるので「赤金」

といます。

## (3) 器具・住居に関する部品

### 主は「中心」の意味

# 主

〔3年〕

ぬスシュ  
し

主で、あかりがシユウシユウと燃えている形を表わした字です。

音はシユウですが、ふつうは短く、シユと発音します。部屋を中心に置くので「中心」「ぬし(主人)」の意味に使います。

## 柱

〔3年〕  
チュウ  
はしら

家の中心になる木、という意味で「はしら」のことです。音は、シユウがなまって、チュウになりました。

## 注

〔3年〕  
チュウ  
そそぐ

川の水が、中心である海に集まり「そそぐ」ことです。

## 益

〔6年〕  
エキ

皿は、さらの象形文字です。水は、水です。益は、「皿に水がみちあふれる」ほどあるということ、いまでは、「物のたくさんある」意味に使います。

### 酉は酒がめの形

## 酒

〔4年〕  
シユ  
さけ

酉は酉で、酒がめの象形です。酒は、酉にはいった水、ということ

で、「さけ」です。酒も酉も、音は酒の発酵する音、シユウですが、いまは酒はシユ、酉はユウです。

## 酸

〔5年〕  
サン

酸(シユン)は「するどい」こと。酒がすくなって、味がするどくなつたのが、酸です。ついでに、俊はすぐれた人、駿はすぐれた馬、峻は、けわしく高い山のことです。

## 配

〔3年〕  
ハイ  
くばる

己は、音がもと排と同じだったので、排列の意味に使われ、配は、「酒がめをならべる」意味を表わしています。

## 医

〔4年〕  
イ

もとは醫です。医は、矢を入れる道具。爰は手に武器を持つ形です。醫は、「病気をやつつける薬酒」または、それを扱う人のことです。

王は玉で王ではない

現

⑤年

ゲン  
あらわれる

玉はまで、象形文字です。玉は美しくあざやかに見えるので、玉と見  
とで、「はつきり見える」「あらわれる」意味を表わしました。

班

ハン

リはリで、刀のこと。ひもでつないだ玉(珥)を、まん中から切るこ  
とで、「分ける」または「分けたもの」をいいます。班の音は半です。

判

⑥年

ハン

半とリですから、「半分に切る」ことです。むかしは、書きつけを二  
つに切り、別々に持って証拠にしました。いまでは、印判(はんこ)が、

この働きをするので、判とこの漢字です。

舟と船とどうちがう

船

③年

セン  
ふね

舟は、ふねの象形文字です。合は沿で、「流れに沿う」ことです。船  
は、「流れに沿って下る大きな舟」のことで、上り下りのできる小さい

のが舟です。

航

④年

コウ

亢は行です。「舟に乗って行く」のが航です。いまでは、「航空」など、  
飛行機にも使います。

兵

⑤年

ヘイ

斤と六(一七一ページ)でできています。「手に手に武器を持つ」形  
で、「兵士」を表わしました。

新

③年

シン  
あたらしい

もとは新で、辛と木と斤でできています。「木を切る」ことで、「た  
き木(薪)」という意味と、切り口の「あたらしい」意味とあります。

斗はますばかり

斗

ト

斗は米を計る「ます」の象形です。柄がついている「ます」です。

## 料

(4年)

リョウ

斗で米の量を「はかる」ことです。音は量リョウです。食べるために計るので、「食べ物」の意味にも使います。食料

## 科

(3年)

カ

「取り入れた禾いねの量をはかる」ことですが、これは品質に等級をつけ、分類するためです。ですから、「等級」「分類」の意味に使います。科の

音は禾カです。

## 家はいへのしるし

## 家

(2年)

いやケカ  
え

家は、宀いへで、いへのしるしです。豕いは、豕いで、ぶたの象形文字です。肉を食用にするので、「豚」と書きます。中国では、豚は人間生活になくてはならないものだったので、どこの家でも飼かっていました。

女のいる家は、安定するという意味で作られた字です。

## 安

(3年)

アン  
やすい

## 定

(4年)

テイ  
さだめる

のなまったもの。

疋ていは正の変形です。「家の中に正しくいる」という意味の字ですが、それは、「さだめられたところにいる」ことです。音のテイは、正せい(シヨウウ)

## 室

(3年)

シツ  
むろ

至しは、矢が地上に届いた形を表わしたもので、「いたる」意味の字です。室むろは、「人の至りとどまる家」という意味で、「へや」のことです。

## 至

(6年)

シ  
いたる

「きまり(寸)を決める家」、つまり役所のことです。人々の生活を「まもる」所です。音は、スンがつまってス。

## 守

(4年)

シュ  
まもる

## 完は天子の宮殿です

## 完

(5年)

カン

元は、二と人とできています。二はむかしのうです。元は、「人の

上にあるもの」という意味で、「頭」のことです。元首は天子をさす言葉ですから、完は「天子の住む家」ということになります。いまは、「かけたところのない」という意味に使います。

## 宗

⑥年  
ソウ  
シユウ

示は、「先祖の神」です。宗は、「先祖の靈を祭ってある家」つまり、「本家」のことです。また、本家は、頼りになる尊い家だから、「頼

りになる」「尊い」という意味にも使います。宗教はそういう意味に使ったものです。音は祖の変化したものです。

## 察

④年  
サツ

先祖の祭りは慎重に行わなければならない。それで、「しらべる」「念入りに見る」意味に使います。音は祭の変化したものです。

## 宮

④年  
ギョウ  
ミヤ

呂は躬の略字。宮は、「身体を休める家」の意味ですが、いまは、「りっぱな建物」の意味に使います。

广は大きな家です

## 店

③年  
テン  
ミセ

广は广で、一方が解放された家の象形です。「みせ」は、客が自由に出入りできるようになっています。音は占のなまり。占は、品物の陳列

だなの象形にもなります。

## 庫

③年  
コ

すぐに「車庫」だとわかるでしょう。いまでは、「金庫」「書庫」など、「倉庫」の意味に使います。

## 広

③年  
コウ  
ひろい

店や庫のように、片方が解放されているので、「ひろい」感じがします。ムは公・弘・宏のムです。

## 度

③年  
ド

とです。いまはものさしの目もりから、温度や角度にまで使われています。むかしは、手(又)を広(广)げて、長さを計りました。廿は十を二つ重ねた形で、二十です。度は、「手を何回も、広げて長さを計る」こ

庭

〔4年〕

テイ  
にわ

●庭は、朝廷ちやうていです。「家からさし出たひさしのあるにわ」が、庭です。こういうにわは、朝廷にしかなかったので、广ひろと廷ていで表わしました。

府

〔4年〕

フ

●付は、人と手で、「手をつける」、または「あたえる」意味の字です。府は、政府が租税そぜいとして手にした禾いねをしまっておく倉庫です。役所の

付

〔4年〕

フ  
つける

意味にも使います。

氏は支てす

底

〔4年〕

テイ  
そこ

●「」は、物の傾いた形です。しはつかえ棒ぼうで、や、意味がそのものだという指示文字のしるしです。氏は、「つかえ棒」、つまり、

氏

〔5年〕

シ  
うじ

「ささえ(支)」を意味しています。支は「わかれ出る」意味がありますので、「一つの家から分かれ出たもの」を氏(支)といい、それ



を表わすための名のりが、氏になったのです。

●底は、傾きかかった家(底)の土台につっぱりを入れた形です。「そこ」の意味に使われています。

屋と室はどっちがう

居

〔5年〕

キヨ  
いる

●戸とは「で」、人が腰かけている「形」です。古(キヨ)は

音を表わすだけです。

屋

〔3年〕

オク  
や

「家に至って腰かけている」という意味の字ですが、



いまは、室と同じく、「家」の意味に使われています。  
 伎は音を表わすだけで、意味は、腰かけて、からだを「のばす」意味です。

**展**  
6年 テン

す」意味です。

●屋と句とでできた字です。句は、むかしは回で、口を一かこ

**局**  
3年 キョク

●みした形です。「ひとかたまりのことば」という意味の字です。局

**句**  
5年 ク

●は、「ひと区切りされたへや」の意味で、「役所の一部」の意味に使います。音は、句と屋が合わさって

●キョク。

●は、むかしは回で、口を一かこ



●キョク。

**宣**  
6年 セン  
 巨は、へやの外の廊下の象形です。つまり、宣は、「廊下」「広間」のことです。むかし、宮中では 詔 を、この宣で伝えました。だから、

●宣旨というのです。詔は、広く国民に伝えるものだから、宣伝という使い方が生まれま

●奇は倚の略字。倚は、椅子の倚で、「よりかかる」こと。寄は、「身を

**寄**  
5年 キ  
 よる

●す。

●よせる家」という意味ですが、いまは、ただ、「よせる」意味に使いま

**属**  
6年 ソク

●禹は蜀の略字で、続の意味。尸は、人の意味で、したがって、属は、

●「つながりのある人」という意味です。いまは族と同じように使います。

**族**  
4年 ソク  
 親属 || 親族  
 於は、旗竿につながつた旗が風にひるがえっている形です。族

は、「矢を背負った兵士が、旗の下に集まる」ことを表わした字で、「集まる」「仲間」の意味に使います。

旗

〔4年〕  
キ  
はた

・ 旗に、音を表わす基キをつけた字です。

・ 旗は、イと人で、つまり、从と同じことです。旅は、旗の下に人の集

旅

〔3年〕  
リ  
タビ

まることで、「軍団」の意味です。のちに「行軍」の意味から、「たび」の意味に使うようになりました。

遊

〔3年〕  
ユウ  
あそぶ

・ 旗がひらひらおどるように、「子どもがあちこちと遊び歩く」ことを表わした字です。

用は柵の形です

用

〔2年〕  
ヨウ  
もちいる

・ 牧場の柵さくの象形です。「役にたつ」ので、「もちいる」意味に使います

が、「はりめぐらす」意味もあります。用心というのは、もちいるのではなくて、この意味です。

周

〔5年〕  
シユウ

・ 用とロで、「ロをめぐる」こと。つまり「言ことば」を十分に尽

くして説明することです。いまでは、ものごとのゆきとどいてくる意

味に使います。用意周到

週

〔3年〕  
シユウ

・ 周は用と同じく、「めぐる」「めぐらせる」意味がありますが、さらに「し」をつけたもの。いまは、曜日にのめぐる「七日間」の意味に使います。

#### (4) 動物・植物に関する部品

夨は「しらべる」意味

## 駅

③年  
エキ

●尺は貿易の易(換える)と同じ意味で、駅は「馬を換えるところ」という意味。むかしは、馬で旅をしたので、「馬を換える所」が駅でした。馬は見かけは速そうでも、実際に乗ってためしてみないとわかりません。「ためす」、これが実験です。

## 験

⑤年  
ケン

●むかしの記録は木の札です。だから、「しらべる」のは検です。検査を験と書いたり、試験を試検と書かぬよう。

## 検

⑥年  
ケン

●βは崖がけのしるしです。「あぶない(危険)」という意味です。探検は「しらべる」ですが、探検と誤りやすいので、気をつけてください。

## 険

⑥年  
ケン  
けわしい

羊は「りっぱだ」という意味

## 美

③年  
ビ  
うつくしい

●羊と大です。羊はやさしく美しい動物ですが、肥えて大きい羊はとり

わけ「うつくしい」ものです。

## 義

⑤年  
ギ

●我は、かぎりのついた戈ほこの形。自分を守る武器なので、「われ」の意味。義は、「我われを美しくする道徳」という意味の字です。正義

## 我

⑥年  
ガ  
われ

●羊はいつも、「むらがっている」ので、羊と音を表わす君クンとで、これを表わしました。

## 物

③年  
ブ  
もモツツ

●牛は大きいので、ものの代表となりました。勿フツは音を表わすしるし。寺、つまり役所に飼われている「とくべつ」の牛です。犠牲ぎせいのための

## 特

⑤年  
トク

立派な牛です。

●牛を犠牲にして神に供え、祈りをささげる「こと」。「神に申しあげる」

こと。

## 告

④年  
コク  
つげる

## 独

⑤年  
ドク

●獨の略字、犸は犬。蜀は音を表わす。犬はけんかしやすいため、一匹

ずっにしておくので、「ひとり」の意味を表わしたものです。

**犯** (6年) ハン  
おかす

「<sup>ハン</sup>」は音を表わす。犬は見知らぬ人に飛びかかるので、「おかす」意味を表わしました。

佳は鳥です

**集** (3年) シュウ  
あつまる

佳は鳥で、鳥の象形文字です。集は、「鳥が木の上にあつまる」意味を表わしています。

**奪** (6年) フン  
ふるう  
ダツ  
うばう  
キユウ  
はと

大鳥が田から飛びたとうとしている字で、「ふるう」こと。  
寸は手のしるし。大鳥と手で、「うばう」意味を表わしました。  
九、九、と鳴く鳥という意味です。キユウはクウのなまり。

**鶯** ガ

我、<sup>ガ</sup>と鳴く鳥です。

**鶴** カク  
つる

雀、<sup>カク</sup>と鳴く鳥です。

**蚊** か  
文、<sup>ブン</sup>文、とうなる虫です。

未が大きくなると果になる

**果** (5年) カ  
はたす

木ですから、木にくだものなっている形です。「くだもの」「できあがる」という意味に使います。

**課** (5年) カ  
カ

仕事を果たすように言いつけることです。「仕事や問題を割り当てる」ことが課題です。

**未** (6年) ミ  
ミ

木ですから、まだくだものが小さく熟していない形です。「まだ」と

いう意味に使います。未熟

味

(4年) ミ  
あじ

くだものは、未・熟・のうちから取って、「あじ」をみたいもので

植

(4年) ショク  
うえる

す。

直は「十の目で見れば、物のすみまで正しくわかる」という意味の字

直

(4年) チョク  
ただちに  
なおす

です。「正しい」「なおす」意味に使います。植は、「木をまっすぐに

える」という意味の字です。

橋は高くそり返っているもの

橋

(3年) キョウ  
はし

喬は、天と高と合わせた形。天は~~てん~~て、頭の曲がった人の形です。

橋は、力学的に、まん中を高く、そり返った形にすると強いので、それ

を喬で表わしたものです。音は~~キョウ~~キョウで、kyo。

機

(4年) キ  
はた

幾キは「たくさん」という意味。たくさんの木・を組み合わせ

作った、りっぱな働きをするしかけが機です。

械

(4年) カイ  
カイ

戒は「いましめる」こと。械は、罪人を戒める、木の道具(かせ)の

ことですが、いまは、機と同じ意味に使います。

校

(2年) コウ  
コウ

交は~~カウ~~カウで、足をまじわらせた形です。「交差すること。校は木を交差

交

(3年) コウ  
まじわる  
まじわる

させて作った械(かせ)のことですが、罪人を調べるための責め道具な

ので、「校正」などと「調べる」意味に使います。

策はむかしのノートです

策

(6年) サク  
サク

むかしは、竹札をノートがわりに使いましたが、これが策です。いま

は、「計画」「はかりごと」の意味に使います。方策・策略

等

〔4年〕  
トウ  
ひとしい

●寺は役所 竹は記録です。役所は記録を整理する仕事があるので、等  
●は「整理する」意味です。それは、「ひとしいものをまとめ」「順序をつ

ける」ことです。

管

〔5年〕  
カン  
くだ

●官は貫の意味。竹のふしを貫通させたのだが「管」です。

●竹は、数を数えるときに使う竹棒。昇は、貝(一三七ページ)と井で、

算

〔3年〕  
サン

●両手にお金をいっぱい持つことです。算は、「お金を数える」というこ  
●とになりますね。

築

〔5年〕  
チク  
きざく

●筑は、竹笛の名。築は、「家を建てる」とき、地面をかためるために木  
●でつく「」ことです。そのときのかけ声が、筑に似ているので、築としま

した。きざくとは、木でつくということです。

世は「たくさん」という意味です

葉

〔3年〕  
ヨウ  
は

●世は三十で、たくさんという意味です。草や木にたくさんあるのは、

●「は」です。笹は、竹の葉ですから、「ささ」ということになります。

●＃と央でできた字。央は、字形の示すように、まん中という意味です。

●花、花びらは、草の中央にあるので、これが英です。「美しい」「すぐれ

た」意味に使います。

芸

〔4年〕  
ゲイ

●云はヨで、人がしゃがんでいる形です。芸は、「人が草木を植える」

●ことです。植木は技術があるので、「技術」の意味に使われます。

●牙は「きば」です。草木のめは、きばのような形をしているので、＃と

●牙でこれをあらわしました。

芽

〔4年〕  
メガ

## (5) 自然に関する部品

𠃉は右と左ではたいへんなちがい

𠃉は、右にあるのは「大ぎ」と左にあるのは「子ぎとへん」と呼ばれています。しかし、そんな名で区別しているのでは、まにあわないくらい、この二つの間にはたいへんなちがいがあるのです。わたしは、右にあるのを「里づくり」、左にあるのを「崖がけへん」と呼んでいます。つまり、いまは同じ形でも、もとがちがうのです。𠃉、これは左にあるばあいの、古い形です。崖の象形です。

陸

(4年)

リク

𡗗は、土が重なっている形が示すとおり、「土の続く所」の意味の部首です。崖下は、海や川でも、崖の上は、土が続いて「りく」になっています。

防

(5年)

ボウ  
ふせぐ

壁

院

(4年)

イン

方カタは四方です。𠃉は、この字では自然の崖ではなくて、人工の土手で。敵を「ふせぐ」ために四方に築いた土手、という意味の字です。防完ヘンは完全です。完全な防壁をめぐらすという意味の字です。いまはそういう防壁のある「りっぱな建物」の意味に使います。

易は𠃉と丁テイできてきます

陽

(4年)

ヨウ

易は𠃉ヨウと丁テイできてきます。𠃉は「日光のそそぐ」こと。丁テイ(チヨウ)は音を表わすしるしです。陽は、「日当たりのよい南向きの崖」

のことです。中国地方の南側を山陽地方というのはこの意味です。陽は、のちに「日なた」の意味に使われ、さらに、「日そのもの」をもいうようになりました。音は丁チヨウのなまり

です。「トヨ」ヨ

湯

(4年)

ゆ トウ

「日なた水」だっということが、すぐわかるでしょう。いまは、火でわかつたものも湯といえます。音は丁トウです。「トヨ」ヨ

場

(3年)

ば ジョウ

「日当たりのよい土地」という意味の字です。いまは、よい悪いに関係なく、「ところ」の意味に使います。音は丁チヨウが、にぎってジヨウになりました。

りました。

陛は土の階段です。

階

(4年)

カイ

皆カイは音を表わす。比は陛ビで、人のならぶ形なので、「同じものが続く」意味があります。階は、「崖を登るために作った段々」のことです。

陛

(6年)

ヘイ

陛は、「同じ形にならんだ土の段々」です。天子は、郊外こうがいに祭壇さいだんを

つくり、土の段々に登って、天をお祭りしたので、天子のことを陛下ヘイというのです。

際

(5年)

サイ

祭サイは、「人と神との交わる行事」です。際は、「がけとがけと交わる場所」です。つまり、「山ぎわ」「崖のはし」です。また、「人と人との交わり」

にも使います。交際

限

(5年)

ゲン  
かぎる

良リョウは夏で、「日ヒが沈しずむ」形。「一日のおわり」です。限は、「崖のおわり」ですが、いまは崖にかぎらず、「おわり」「はて」「かぎる」の意味

に使います。

右の「邑」は「邑」の変形

「邑」は、邑いをかんたんにした形です。邑いは、口く(国)と巴は(きまり)とでできた字で、

「統一ある国、または町村」という意味の字です。邦ホウ・邑イ・郡グンは、国の大きさによる区



ということとは、「人が多い」という意味です。諸君。いまでは、「諸国」「諸所」なども使います。

## 著

〔3年〕  
あらわす  
いちじるしい

「草がたくさんしげる」ことですが、いまでは、草に関係なく、「いちじるしい」「目だつ」「はっきり」「あらわす」などの意味に

使います。

## 漢や油は川の名まえてす

## 漢

〔5年〕  
カン

漢という名の川です。この川のほとりに起こって、中国を統一した国が、漢という国です。漢字はこの漢という国の栄えた時代に、いまのような形になりました。

## 油

〔4年〕  
ユ  
あぶら

由という川です。この川は、とろりとしてゆうゆうと流れているので、

とろりとしている「あぶら」を、油というようになりました。

## 治

〔4年〕  
ジチ  
おさめる

「川の水があふれないように、兩岸に高台を築く」ことが治です。いまでもむかしでも、この水を治めることが「政治」の第一であることは、変わりがないようです。台タイ (台) の音がチ になり、にチ ければジになります。

## 法

〔4年〕  
ホウ

「さる」意味に使います。水は、自然のままに流れ去り、じゃまがあれ去ばそれをよけて、むりをしないで海に流れていきます。水の流れのよう去に、むりのない生活ができるように決めたのが法です。

## 去

〔3年〕  
コキヨ  
さる

## 也はいやなへびです

## 池

〔2年〕  
チ  
いけ

也は、へびの象形です。池は、城のまわりをへびのようにとりまいて

地

(2年)

ジチ

土地には、山あり、谷あり、へびのようにうねっています。

いる川のことです。

他

(4年)

タ

「へびのようにいやな人」という意味です。「あいつ」という意味に使います。いまは、「よそ」という意味。

演と延と遠

演

(5年)

エン

演は延の意味です。水がながながと流れるようすを演といえます。い

までは、講演、演説など、「ながながとおしゃべりする」ことに使いま

す。

延

(6年)

ののエン  
ののべびる

又は、イの変った形です。ですから、延と延(延)と同じことになります。しかも、ノと衰エンと同じ意味ですから、延と遠は、結局同じ意

味になり、「とおごかる」ことです。

厩は崖の意味

原

(3年)

はらゲン

厩ゲンと泉いずみでできた字。「崖いわ下から湧き出る泉」という意味ですが、いまでは、源(みなもと)と(水のもと)という字ができ、原は、「崖下の平地」という意味に使われるようになりました。低くて平らなのが、平原で、高くて平らなのが高原というわけです。

泉

セン  
いずみ

●白水とは、「きれいな水」の意味で、「湧き水」のことです。

厚

(5年)

コウ  
あつみ

●早コウ(享)は音を表わすしるし。がけの層そうの「あつい」ことを表わした

字です。いまでは、がけにかぎらず、物の「あつい」という意味に使い

ます。

どちらがよくわかりますか

温

〔3年〕

オン

皿シは、もと皿シです。囚人シウジンに食べ物を与える意味の字で、「心のあたたかい」ことを表わした部首です。ですから温は、「水をあたたためる」、「または「あたたかい水」ということです。これに対して、「皿シのミが日ヒに照シらされて暖まる」という説明はどうですか。前の説明は正しい説明ですが、いまの字体から見ると、わかり

にくいでしょう。あとの説明のほうがずっとわかりよいでしょう。こういう説明は、だれでも考えつくことができ、しかも、子どもたちが漢字を覚えるのにはたいへん効果のあるものです。

活

〔3年〕

カツ

この字を考えてみてください。わたしはこんなふうに考えてみました。「かわいた舌シを水ミでうるおして元キ気キづく」こと。

折

〔5年〕

セツ  
おる

「手テに斤シ（斧）を持って木をおる」ことです。でも、ほんとうは、この字の古い形は折セで、まではなくて、木キが二つに折れた形です。こういうことは、古い書物で調べなければわかりませんが、前のような説明なら、だれでもできるでしょう。子どもたちにはそれでよいのです。

姉

〔4年〕

シ  
あね

市シは始シだと考えるのです。女のきょうだいの始まりが姉だ、というわけです。妹の末シ（二〇九ページ）は、未熟シのくだものの象形ですから、「女のきょうだいの小さいの」ということになります。